

原 著

腎機能障害の指標としての血清シスタチン C の有用性

—当院における検討

渡 邊 恵 介¹⁾, 須 郷 秋 恵²⁾, 宮 島 栄 治²⁾

¹⁾ 横浜市立大学医学部医学科 学生

²⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター臨床検査部

要 旨: 目的: 血清クレアチニン (SCr) は糸球体濾過量 (GFR: Glomerular filtration rate) を評価する指標として用いられている。しかし, SCr は年齢, 性別などの影響を受ける。また, GFR が30-40ml/min 程度まで低下しないと上昇してこないため, 早期の腎障害を把握することが難しいと言われている。一方, 近年血清シスタチン C (Cys-C) が新たな腎機能の指標として注目されている。今回 Cys-C と SCr の有用性の比較, 検討を行った。

方法: 64人の患者における, SCr, Cys-C, 24時間蓄尿クレアチニンクリアランス (Ccr) を測定し, 比較, 検討した。

結果: Cys-C は SCr より Ccr とより強い相関を示した。(Cys-C-0.758, SCr-0.700, ともに $P < 0.001$) SCr は Ccr が ≤ 40 ml/min 未満で上昇 ($P < 0.001$) したのに対して, Cys-C は Ccr が ≤ 60 ml/min 未満で上昇 ($P < 0.002$) した。

考察: Cys-C は早期の腎機能低下を評価する際に SCr よりも有用であると考えられる。

Key words: シスタチン C cystatin C, クレアチニン creatinine, 糸球体濾過量 glomerular filtration rate, 腎機能 renal function